



KORE MITE

VOL.7

— 東北学院大学博物館 収蔵資料図録 —

絵

東北学院大学博物館の 馬を一挙にご紹介!!

そもそも絵馬とは?

絵馬とは、祈願や神仏の恩に感謝するために神社や寺に奉納する板絵です。

絵馬は奈良時代の遺跡からも出土するなどその歴史は古く、起源は、神への生き馬を献上する習俗にあるとされています。馬は古くより神の乗りものとして神聖視され、『続日本紀』などの古代の史書にも、降雨祈願や止雨祈願に馬を献じたことが多数記録されています。一方では、生き馬にかわって馬形という、素焼きや陶器と同じ粘土の焼き物の土馬を献上する風習も生まれ、この馬形がさらに簡略化されて絵馬になったと考えられています。

種類もさまざま

絵馬は大きく2つの種類にわけられます。ひとつは農耕や狂言などの多彩な風俗を題材にし、社会全体の祈願として奉納していた「大絵馬」。そしてもうひとつが、人びとが日常のひそかな願いを込めた「小絵馬」です。

その小絵馬の絵柄もさまざまで、神仏にゆかりのある動物たちや、子育てに関する一場面、海難をまぬがれるために描かれる刃物などなど…。今回のKOREMITEでご紹介する絵馬たちも、奉納場所や描かれているものが異なるだけでなく、もっとも点数が多かった馬の絵についても、よくみると実は色々なちがいがあったのです。毛色やポーズに注目してみてください!

絵馬観察のすゝめ

絵馬は、奉納されている社寺によって形も納められ方もさまざまです。これらの絵馬をいろいろな角度から見ると、意外な新しい発見に出会えます。

今回の『KOREMITE』では、当館収蔵の絵馬をもとに絵馬の見方に焦点をあてて、ご紹介していきます。

境内のどんな場所に奉納されているか、同じ社寺でも違う種類の絵馬が奉納されているか、ぜひ自分の目でも、各地の絵馬を観察してみましょう!

色かたち

一般に「絵馬」というと、五角形の板に馬もしくは千支の動物が描かれたものを想像する人が多いかもしれませんが。しかし実際には、板の形や描かれている絵の題材が異なる、多種多様なものが存在します。また、描かれている絵の向きや色使い、さらには描き方も観察してみると、新たな発見があるかもしれません。

納め方

絵馬の奉納の仕方にも、さまざまな方法があることをご存知ですか?

今日では、絵馬の上の部分にあけた穴にひもを通して、所定の場所にかける、というのが一般的ですが、ひもを通さずに壁にかけて奉納したり、すでに奉納されている絵馬を借りて、祈願が成就したあとにもう一枚作って倍返ししたりと、実はほかにもいろいろな納め方があります。

絵馬には個人情報か書かれていることもあるけど、悪用はしちめだぞ!!



走る



鼻とひづめが
青いね

駆け出す親子馬。裏面には「附馬牛村(つきもうしむら)」と記載があります。現在の遠野市にあった村です。

1 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦149×横182×厚さ8



栗毛の馬が2頭走っています。1頭は振り返って仔馬の様子を見えています。

2 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦146×横242×厚さ12



鹿毛の馬が1頭走っている様子が描かれています。中央に青で塗られているのは、その幅や長さから小川のような模様です。

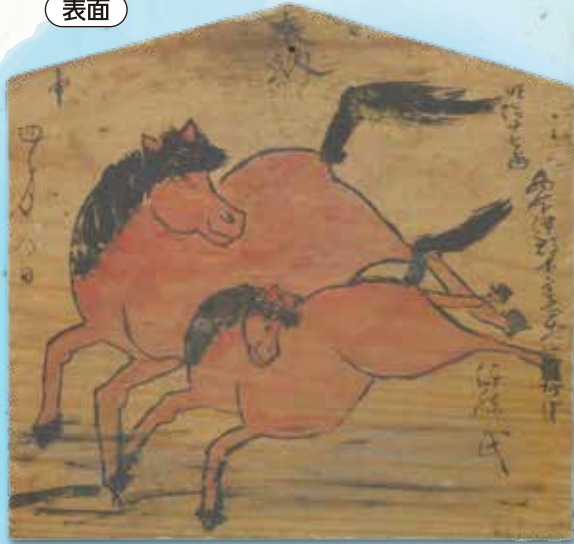
3 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦134×横156×厚さ8



1頭の馬が走る様子が描かれています。馬の胴部には背中中で結んだ帯状のものが巻かれ、この装束には雲のような模様が描かれています。

4 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦122×横143×厚さ7

表面



鹿毛の親子馬が後ろを振り返りながら走っています。視線の先には何があるのでしょうか…?

裏面



表と裏に同じ絵柄が!

5 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦169×横179×厚さ6

体の一部の色が落ちてしまっていますが、力強く足を踏み、今にも駆けだしそうな様子です。



6 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦130×横162×厚さ8

食む



2頭の馬が親子そろって草を食む様子が描かれています。裏面には彫刻刀のようなもので文字を削り取った痕跡があります。

7 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦146×横179×厚さ8

あしのひらき方までそっくり!



8 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦152×横211×厚さ8

装う

二匹の馬が描かれており、左の大きな馬のみが馬衣を着ています。胴で結ぶものではなく、肩にかけられるような衣装です。



9

採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦162×横214×厚さ6



馬は、背に赤い飾り布を羽織り、緑の帯で締めています。絵馬の作り、馬の描かれ方から堂々とした印象を受けます。

10

採集地:青森県佐井
寸法(mm):縦222×横284×厚さ13(額装除く)



黒色の馬が2匹、茶色の馬が1匹描かれています。3匹揃って追いかけてっこをしているのでしょうか。楽しそうな雰囲気が伝わってきます。

11

採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦170×横239×厚さ8

2頭の親子馬です。仔馬が親馬を見つめている様子がほほえましい一点。

毛並みも
おそろい



12

採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦146×横186×厚さ10

連なる

ちょっと深掘り!①

絵馬の飾り方をみる

絵馬と絵馬堂

絵馬にはひもで吊るしてかけるもののほかに、拝殿や本殿、門などに飾られるものがあります。また社寺の中には奉納された絵馬を飾るための絵馬殿や絵馬堂と呼ばれる施設を持つものもあります。絵馬堂は、慶長13(1608)年に豊臣秀頼が北野天満宮に造営したのが始まりとされます。当時の人々にとって奉納された大絵馬の観覧は、寺社参拝の楽しみのひとつになっていました。

穴がない!

五角形
じゃなくて
四角形?



13 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦155×横227×厚さ7



14 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦168×横205×厚さ10

応用編

仙台近郊も あるいてみよう!



仙台市近郊の社寺で絵馬はどのように飾られているでしょうか?
例えば大崎八幡神社では、拝殿の目の前に^{ながとこ}長床という中央が開き左右が室になっている建物が存在します。中央の門道部分と左右の室に大絵馬が飾られています。小絵馬は長床の前に絵馬掛けが作られ、ここにかけています。

また塩竈市に鎮座する、古来より陸奥国一宮と呼ばれた^{しおがま}鹽竈神社は、参道が七曲坂、表参道、東参道と3か所存在します。このうち、表参道を登った先にある^{ずいしんもん}隨身門と、東参道を登った先にある東神門に大絵馬が飾られています。隨身門では拝殿からみて左手の回廊に大絵馬が飾られ、その前に小絵馬をかける絵馬掛けがあります。東神門では拝殿からみて右手の回廊に大絵馬が飾られています。

向きはどっち?



15 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦157×横213×厚さ7

左に向かって
歩く親子馬

一見どちらの絵馬も馬が書かれているだけのように見えますが、この2枚の絵馬、よく見るとそれぞれ馬の向いている方向が違います。「左馬」は、縁起の良い図柄とされていることから、馬がどちらを向いているのか、ということ意識して奉納した人もいるかもしれません。

右に向かって
走る黒い馬
上部に描かれた花も
どこか朗らか



16 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦122×横128
×厚さ7



白い体に赤の
衣装、あしや尻尾
たてがみは黒

17 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦146×横179×厚さ11

昔から黒毛の馬は雨乞いに使われ、白馬は日乞いに使われたようです。平安中期からは日乞いの際、白馬にかわり赤馬が使われることもあったといえます。実物の馬をそろえることができない時は、絵馬をその代わりにしたそうです。中世末期以降には、日照りと降雨のどちらにも恵まれるようにと、白毛の馬と黒毛の馬の図を一对で奉納する風習がはっきりしてくるといいます。

黒い仔馬と
茶色の親馬
仔馬はかまって
ほしいみたい



18 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦178×横182
×厚さ10

なにいろ?

船絵馬に注目!



19 採集地:青森県佐井
寸法(mm):縦216×横290×厚さ8

船絵馬とは?

船絵馬とは、馬ではなく船が描かれた絵馬のことです。船主や船頭などが航海安全を祈願して、あるいは無事に航海を終えたことに感謝をして、自身の所有する船が描かれた船絵馬を寺社に奉納していました。

船絵馬は江戸時代初めの寛永年間(1624~1644)からみられるようになり、特に幕末~明治時代にかけて盛んに製作されました。北海道から東北、北陸にかけての日本海側沿岸地域に多く残っている一方で、太平洋側にはあまり残っていません。これには船絵馬に描かれることが多い北前船が西廻り航路に利用されていたことが影響していると考えられます。

描かれているのはどんな船?

本資料に描かれている船は弁才船^{べんざいせん}という種類で、船絵馬においてよくみられる船です。弁才船は大きく反った船首と船尾^{かきたつげいしきこうぞう}、垣立形式構造が特徴的です。帆で進む力が強く、少ない乗員で多くの荷物を積めるため、西廻り航路で広く利用されていました。

また、中央に大きく見える帆にはなにも描かれていませんが、下の資料の黒い線のように、船絵馬の帆にはさまざまな模様が描かれていることが多いです。この模様は帆印^{ほじるし}といい、陸の上から航海をしている船を判別する目印の役割を果たしていました。

こわれた部分から紙を発見!



20 採集地:青森県佐井
寸法(mm):縦222×横285
×厚さ5

普通の絵馬とはちがった作り方!?

絵馬は木の板に馬の絵を描いて作られる…なんて思っていないですか? 実はすべてがそうではないのです。船絵馬をよーく見てみると…なんと板に直接絵が描かれているのではなく、板の上に船の絵が貼られています!

当館所蔵の船絵馬は、板に直接絵を描くのではなく、版画刷りした船の絵を板に貼り付けて製作されます。この船の絵は、絵馬専門の絵師が描いていたとされ、写実性が高く、船の構造や乗組員の数、帆印、帆の反数など船ごとの特色が鮮明に描かれます。

本資料は、木の板に船の絵を釘のようなもので打ち付け、その上から梓木を貼り付けています。

ユニークな描き手たち

親子の馬が描かれています。仔馬は右前あしと頭を上げ、尻尾を立てて生き生きとしています。よく見ると、親馬のお腹を描いた線が仔馬に見えます。



21 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦135×横212×厚さ11



練習したのかな?

22 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦152×横179×厚さ6



たてがみと尾の毛が細かく描かれていて、毛の感触がはっきりと伝わってきます。裏面には下書きなのか、未完成の馬が描かれているのもおもしろいですね!

親馬が前を向き、仔馬が後ろを向いています。たてがみには墨が塗られ、豊かな毛並みです。

背景で
臨場感UP



23 採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦137×横190×厚さ10



24 採集地:不詳
寸法(mm):縦168×横194×厚さ9

八幡馬を描いた絵馬です。馬のたてがみや尻尾の毛は細かい線で描かれていて、毛の質感が感じられます。黒色のあしからも、その毛並みの質感が伝わってきます。



この絵馬は明治時代のもので、鹿毛の親子馬が描かれています。マンガのような表情と2頭のぱっつん前髪がかわいらしいです。親馬は尻尾が長いのですが、子馬の尻尾はまだ短くて、幼く見えます。

25

採集地:岩手県遠野市
寸法(mm):縦165×横224
×厚さ5



26

採集地:不詳
寸法(mm):縦145×横214
×厚さ8

大正時代に作られた絵馬です。親馬が右前あしを上げて走り出そうとし、仔馬がそれに遅れまいと走っています。子どもが親を追いかける感じが感じられます。

宝剣は絵馬としても使われます。通常は剣を持った神々が社寺の祭祀において用いられ、剣は悩みや災いを断ち切る象徴ともされました。

27

採集地:不詳
寸法(mm):縦455×横140×厚さ16
(うち、剣部分:縦350×横114)



28

採集地:福島県相馬市
寸法(mm)①:縦119×横70
②:縦220×横114
③:縦205×横277×厚さ5

これは夕顔観音の奉納物です。ひとつは、3枚重ねの小さなひょうたんをかたどった絵馬(①)です。台形の絵馬(③)の表面には4つのひょうたんが描かれ、3つのひょうたん(②)がひもでつながれています。



馬だけじゃない!

ちょっと深掘り!③

絵馬なのに牛!?

絵馬の画題は必ずしも「馬」であるとは限りません。また、絵馬の扱い方も「社寺へ奉納する」ことだけにとどまりません。ここでは「牛」が描かれた2点の絵馬を紹介します。



29 採集地:山形県鶴岡市
寸法(mm):縦85×横142×厚さ7

牛と寺社との深いかわり

山形県鶴岡市羽黒町(旧東田川郡羽黒町)に所在する出羽三山神社の絵馬には、「神牛」と称される牛が描かれています。出羽三山は月山・羽黒山・湯殿山の総称で、古くより山岳信仰の霊場として開かれ、広域から多くの参拝者を集めてきました。ここではその三山のひとつである湯殿山の開山が丑年であったことに由来し、牛を神聖なシンボルとしています。

また、江戸で大火が起こった際に、出羽三山の「神牛」が現れて火難を防ぎ、庄内藩江戸屋敷を延焼から守ったという伝説があり、庄内地方を中心に牛を火防の神とする民間伝承も存在します。



左ページの絵馬は
こんなセット

絵馬のおみやげ

板材に金属板を張り付けた立派な造りをしていることや、丁寧に包装されて由緒書きとともに箱に納められていることなどから、参拝者にもうけての土産品として用いられたものとみられます。「お土産として持ち帰る」という絵馬もあるのですね。

牛が描かれたそのワケは??

宮城県仙台市青葉区大倉(旧宮城町大倉)に所在する、定義如来じょうぎにょらいの名称で有名な極楽山西方寺の絵馬にも牛が描かれています。

しかし、西方寺には出羽三山のような牛にまつわる由緒や信仰などは確認できません。

なぜ絵馬に牛が? 答えは絵馬に記された年号からわかります!

絵馬の表面には「昭和四十八年」という記載があり、この年は丑年にあたります。1年間の幸運を願った縁起物として牛が描かれたのでしょ。



30 採集地:宮城県仙台市
寸法(mm):縦50×横70
×厚さ6

■ KOREMITE掲載絵馬一覧

掲載No.	画題	寸法(mm/縦×横×厚さ)	採集地	奉納先	奉納年	資料番号	備考
1	馬	149×182×8	岩手県遠野市		明治27(1894)	0181	
2	馬	146×242×12	岩手県遠野市			0189	
3	馬	134×156×8	岩手県遠野市		明治16(1883)	0192	
4	馬	122×143×7	岩手県遠野市			0193	
5	馬	169×179×5.5	岩手県遠野市		明治17(1884)	0185	
6	馬	130×162×8	岩手県遠野市		明治21(1888)	0184	
7	馬	146×180×8	岩手県遠野市		明治19(1886)	0183	
8	馬	152×211×8	岩手県遠野市		明治19(1886)	0186	
9	馬	162×214×6	岩手県遠野市		大正3(1914)	0159	
10	馬	222×284×13(額装除く)	青森県佐井			0035	
11	馬	170×239×8	岩手県遠野市		明治23(1890)	0194	
12	馬	146×186×10	岩手県遠野市		明治15(1882)	0199	
13	馬	155×227×7	岩手県遠野市		明治22(1889)	0188	
14	馬	168×205×10	岩手県遠野市		明治24(1891)	0190	
15	馬	157×213×7	岩手県遠野市		昭和3(1928)	0195	
16	馬	122×128×6.5	岩手県遠野市			0197	
17	馬	146×179×11	岩手県遠野市		明治19(1886)	0198	
18	馬	178×182×10	岩手県遠野市			0191	
19	船	216×290×8(額装除く)	青森県佐井			0036	
20	船	222×285×5(額装除く)	青森県佐井		明治8(1875)	0034	
21	馬	135×212×11	岩手県遠野市			0156	
22	馬	152×179(最大幅)×6	岩手県遠野市		明治14(1881)	0182	
23	馬	137×190×10	岩手県遠野市		明治13(1880)	0196	
24	馬	168×194×9	不詳			0179	
25	馬	165×224×5	岩手県遠野市		明治16(1883)	0180	
26	馬	145×214×8	不詳		大正13(1924)	0187	
27	剣	455×140×16	不詳		昭和4(1929)	0134	
28	夕顔	①：縦119×横70 ②：縦220×横114 ③：縦205×横277 ×厚さ5	福島県 相馬市松川		昭和46(1971)	0138	
29	火防神牛	85×142×7		出羽三山神社 (山形県鶴岡市)		0106	
30	牛	50×70×6		定義如来西方寺 (宮城県仙台市)	昭和48(1973)	0118	
	ムカデ	136×194×7		福應寺毘沙門堂 (宮城県角田市)	昭和3(1928)	0161	KOREMITE vol.2収録
	ムカデ	134×184×9		福應寺毘沙門堂 (宮城県角田市)	明治	0162	KOREMITE vol.2収録
	ムカデ	150×208×10		福應寺毘沙門堂 (宮城県角田市)		0164	KOREMITE vol.2収録
	馬	102×135×7		小高神社 (福島県南相馬市小高区)		0105	KOREMITE vol.6収録
	馬	127×262×7		駒形神社 (岩手県奥州市)		0120	KOREMITE vol.6収録

■ 参考

- 岩井宏實 1974 『絵馬 ものと人間の文化史12』法政大学出版局
 岩井宏實 1999 『絵馬』『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館
 岩鼻通明 2000 『出羽三山信仰』福田アジオほか編『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館
 川尻秋生 2021 『絵馬の起源を探る—古代史研究と民俗資料—』佐々木虔一・川尻秋生・黒濟和彦編『馬と古代社会』八木書房
 昆政明 2012 『青森の船絵馬』青森県立郷土館編『青森県立郷土館研究紀要』第36号、
 佐井村 1971 『佐井村誌 上巻』
 須藤功 2009 『大絵馬物語1 稲作の四季』農山漁村文化協会
 仙台市博物館 1977 『東北の絵馬展』
 東北歴史資料館 1991 『宮城の絵馬：人々の祈り』
 藤本誠 2021 『祭祀・祓と馬』佐々木虔一・川尻秋生・黒濟和彦編
 『馬と古代社会』八木書房
 平凡社地方資料センター編 1990 『日本歴史地名大系6 山形県の地名』平凡社
 北條朝彦 1994 『出土遺物に描かれた動物—奈良・平安期の東日本における諸例—』
 『動物考古学』3号
 北條朝彦 2009 『古代「絵馬」祭祀論—難波宮跡北西部と奈良県日笠
 フシダ遺跡から出土した「絵馬」を中心に—』『續日本紀研究』381号
 牧野隆信・刀禰勇太郎・西窪頭山 1977 『日本の船絵馬』柏書房
 宮城懸 1980 『宮城縣史13 美術 建築』宮城縣史刊行会
 吉岡一男 2008 『大崎八幡宮 仙台・江戸学叢書5 仙台北下の民俗信仰』大崎八幡宮

出羽三山神社HP「御由緒」 <http://www.dewasanzan.jp/publics/index/6/>
 (最終閲覧：2021.11.22)

■ 執筆担当(五十音順)

- 石倉 蓮：13～14p
 大友健太郎：9～10p
 金澤 日本：3～4p、5p上、6p
 佐竹 由羽：7～8p、11～12p
 福澤 光稀：19～20p
 真柄 侑：1p、5p下
 楊 雪雁：15～18p
 横山 舞：2p、21p

■ 表紙

楊 雪雁

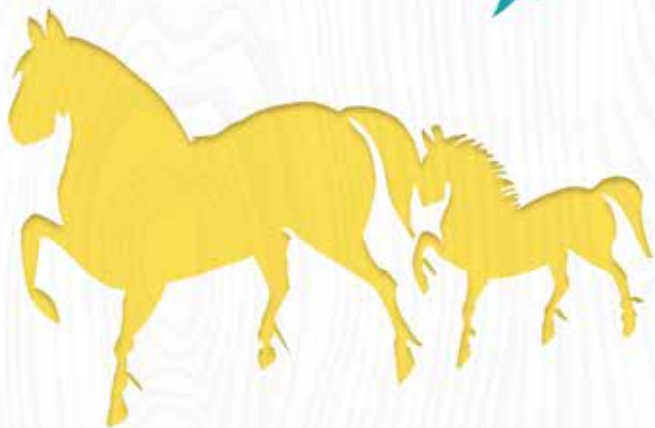
■ 編集

真柄 侑

■ 監修

金子 祥之・佐藤敏幸・永田英明・七海雅人

わたしたちを
探してみてね



VOL.7

KOREMITE

編集・発行：東北学院大学博物館

発行日：2022年3月15日（初版）

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL：022-264-6920

<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/>



@tgu_museum

[https://www](https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/)



[ipc.toho
ku-gakuin.a
c.jp/tgum/](https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/)